

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	2490300346	
法人名	社会福祉法人 鈴鹿福祉会	
事業所名	グループホーム悠々	
所在地	三重県鈴鹿市伊船町2943番地の4	
自己評価作成日	令和5年10月6日	評価結果市町提出日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2490300346-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2490300346-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	
所在地	津市桜橋2丁目131	
訪問調査日	令和5年10月23日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

私たちは、こころや思いといった気持ちを目に見えるかたちに表すことを旨として、利用者一人ひとりに対して接することにより、地域から信頼されるべき存在であり続けることを基本理念とし、次に掲げる運営方針に配慮してサービスを提供します。認知症の高齢者が地域社会に密着しながら共同生活を行い、日常生活の中で援助を受けることにより認知症の進行緩和や、健康で安全な生活を送るための支援を行うことを目的とします。利用者の人格と権利を尊重し、利用者の立場に立ってサービスを提供するとともに、その地域で日常生活が可能な限り自立して行える等の介護、その他の援助を行います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)】

日差しは優しく、風も穏やかで鈴鹿山脈もはっきりと見え、満開のコスモスが事業所から見えるなど、「秋晴れ」と言うのがぴったりの調査日であった。その様な環境の中、平屋建ての落ち着いた事業所である。事業所内は清潔感に溢れている。フロアから広いベランダが続いており、椅子に座って目の前に広がる田畑や満開のコスモス畑、忙しく走る沢山の自動車などを見ている利用者が居た。他の利用者も静かで穏やかに過ごしている。大きな声や慌たしい動きはない。その様な利用者の様子から、一人ひとりが自分の気持ちのままに過ごし、一人ひとりに合った支援に力を入れていると言うのが分かる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に沿ってアットホームな環境で、入居者の方々が自分らしく主体性を持った生活を送れるように努めています。	今年5月から「社会福祉法人 鈴鹿福祉会」に統合され理念も「私たちは、地域に信頼されるべき存在であり続けます」となった。これまでの理念を基盤として新しい理念に添った支援を心掛けている。今年度は「外に出る事で質を高める。」を事業所として挙げた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近はお茶店に出かけたり、夏・秋祭りや地域の防災訓練に参加の声をかけてもらっている。	コロナ禍で外出は出来なかったが、今年は地域の夏祭りに参加した。よく利用していたドラッグストアやお茶店へも出掛けたが事業所の名前を伝えるだけで、お店の皆さんから歓迎を受けた。地域との付き合いは開設約10年と言う歳月で基盤が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて取り組みをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度より2カ月に1度、奇数月に当事業所にて開催している。報告書をわかりやすく作成し、質の良い会議にする努力をしている。	今年度5月から開催している。行政や民生委員等の参加がある。コロナ禍後の入居者が多く、運営推進会議の目的を知らない人が多くまだ家族の参加はない。今年度は年2回行っていた家族会を開く予定であり、その時に説明し参加を募る予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている。月1度の報告もし、介護相談員の再開も受け入れしている。	運営推進会議への参加の協力はあり、出向けられない時は電話やメールでのやり取りで連携は取れている。話しやすい関係でもある。近くの市民センターへは書類を届ける等よく利用している。包括支援センターからの入居者の希望の相談は多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、年4回開催する体制である。身体拘束につながらないように体制を整えている。研修も年2回実施する体制にしており、常に質の良いケアに努めるよう心掛けている。	毎月のユニット会議にて「身体拘束」についての話や法人による研究会にも参加している。支援中にも「身体拘束」や「虐待」についても考えながら支援をしている。BCPのマニュアルについては法人が作成中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当事業所内の認知症研修を毎月、虐待防止研修を年2回実施する体制にしており、常に質の良いケアに努めるよう心掛けている。なお研修は、動画を活用している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止研修とともに年2回実施する体制にしており、常に質の良いケアに努めるよう心掛けている。外部研修の活用の検討をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者が十分に行っている。希望があれば、事前に契約書をお渡ししている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在は事前予約の面会である。運営推進会議も開催されるようになり、直接意見等を聞く機会が徐々にではあるが再開しており今後発展させたい。	法人として家族アンケートを取ったがまだ集計は出来てない。意見や希望を聞き取り、想いに添った支援を心掛ける予定である。現在は家族とのメールでのやり取りやビデオ通話の希望があり叶えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に法人との面談を行う体制である。運営に関する質問は、きちんと法人理事長、理事が対応している。	法人との面談や話し合いは年2回ある。法人が代わり混乱と緊張はあるが、職員との関係性は変わらず、毎月の会議での意見のやり取りも今までと変わらない。気楽に意見交換できるノートがあり情報共有も出来、タブレットでの確認も出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理念を明確にし、安心して仕事ができるよう努めている。やりがいを持ってもらうため、給与水準も低くせず、研修参加機会を確保し、スキルアップになる情報の提供を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修は動画を活用し実施している。事業所外の研修はZoomを活用している。今後は実践者研修、管理者研修への参加を検討していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	Zoomでの研修等が増えてきており、少しずつではあるが、交流の機会は増えてきている。交流のためのZoom等は時間等の都合が合わず、交流はあまりない現状である。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心に潜むニーズ把握に心がけている。特に初期においては様々な視点から消去法のような対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が、入居者（本人）との関係や気持ち等の受け入れ状態（段階）を会話しながら確認し、言葉に気を付けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の方々を認知症である前に、ひとりの人間として見るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	専門医への受診・訪問診療は家族と施設が伴って行動し、共有できるように築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どなたでも来て下さるように環境を整えている。(ご家族の方から面会制限がある場合、感染症蔓延予防の必要時を除く)なじみのある場所に出かけることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関わり合いが維持できるようテーブルの位置を考えたり、役割を考慮してスケジュールを考えたりしている。	コロナ禍で家族からの手紙が多く、近所の馴染みの方からの面会もありとても喜ばれていた。ドライブしながら馴染みの場所が近い時は回り道をするなど、馴染みの関係の維持に努めている。回想法などにも力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いが維持できるようテーブルの位置を考えたり、役割を考慮して時間スケジュールを考えたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の家族に困りごとあった際、介護保険サービスにつながる対応を行った例は過去に2例ある。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにおいて思いや希望の把握に努めている。パーソンセンタードケアの考えのもと本人本位で対応し、時に紐解きシートを活用している。	全職員で日々の支援中での聞き取りや、今までの歴史等から考慮し、紐解きシートに記入した情報を会議で話し合い、共有した支援を介護計画表に上げるようにしている。24時間シートへの記入などもそのままの声を記入し介護計画表に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいて生活歴や馴染み生活、環境の把握に努めている。パーソンセンタードケアの考えのもと本人本位で対応し、時に紐解きシートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	パーソンセンタードケアの考えのもと本人本位で対応し、モニタリングや再アセスメント、時に紐解きシートを活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひとりにつき3ヶ月に1回はケアカンファレンスを実施している。随時意見が言えるように申し送り簿も活用し、意見交換を行っている。	24時間シートをモニタリングに落とし、職員会議にて話し合い最終チェック後、次への介護計画表へ進んでいる。家族との話し合いは勿論、主治医とは訪問時に話し合いチームでの介護計画表を完成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の24時間シートを使用。月1回それぞれミーティングやカンファレンスで全体の意見交換を行っている。日々申し送りの実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の送迎、入居時の車両の迎えも行っている。散髪サービスや希望があれば訪問マッサージや外来のリハビリも対応する。可能な限り個人のニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパー、ドラッグストアや和菓子屋などに出かけて買い物をしている。また、喫茶店でコーヒーなどを楽しむこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣に主治医のクリニックがあり、月2回の訪問診療、必要時の受診を早くに行っている。専門医院の受診もフォローしている。	開所時から近隣の自宅を兼ねた医院の医師が事業所の主治医である。月2回訪問診療がある。24時間対応も可能であり、月2回の看護師の訪問もある。他科受診は家族と事業所が一緒に出掛ける時もあり、手厚い支援が来ている。一番の自慢でもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	浣腸や点滴、血液検査や褥瘡処置等の依頼をしたり、情報の共有を密に行うことで適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	救急や入院の際、主治医からの紹介状や情報提供書を提供している。施設は心身の状態や服薬情報等の提供を行っている。退院時の調整はそれぞれが連携し、早期に実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所の指針は、契約時に説明をしている。早い段階での家族への意向確認を実施している。主治医との調整も行っている。	昨年は看取り支援が4名あり、大変だったが得る事が多かったと職員の話もある。新しい法人は特養を併設しており家族の安心材料にもなっている。緊急マニュアルもすぐに見える場所にあり、職員の安心と共にチームとしての体制にも繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡のマニュアルやチャート式の連絡法など活用し、体制を整えている。応急処置などは救急法の研修を進めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施（夜間を想定したり、ひとり対応を想定）、グループLINEを活用している。	規則である訓練は年2回実施している。2ヶ月に1度は、夜間時の訓練、感染症、台風、地震、火災などが起きた時どのように動くかのシュミレーションを必ず行い、訓練に活かしている。地域の消防署も5分位で事業所へ着く等体制も整っている。	事業所の立地から地震による津波は心配ない。だが今後を考慮し、消防署の協力を得て基本的な訓練から指導を仰ぎ、緊急時に対応が出来るような体制作りを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりの人として普通に接するよう意識することを心掛けている。さらに本人を否定する言葉、不安を抱いてしまう言葉・態度などに気を付けるように意識している。	管理者は「その人が幸せであれば周りも幸せ」と言う考えである。職員も「パーソンセンタードケア」の本を読み「利用者中心の支援」の考えでチーム一丸となって取り組んでいる。上から目線の態度や言い方などもお互いに注意し合いながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示語を少しでも減らし、個々の状況に応じて自己決定してもらっている。例えば「どうしましょう」を多めに使うなどを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居心地の悪さを感じない程度の起床、就寝、食事、入浴はスケジュールに沿って入居者にはお願いしている。時間をかけながら徐々に柔軟な体制を整えたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じような服に片寄らないように気を配っている。女性は顔には化粧水、髪にはコンディショナーなど使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理済みでの食事提供であることから、たまに料理していただく程度である。配膳・下膳や食器洗い、お盆を拭くなどをお願いしている。誕生日は好物をみんなで食べたり楽しんでいる。	食事は味噌汁やご飯以外は業者による湯煎での料理である。利用者、職員には好評である。イベントや行事食、おやつでの手作りもあり喜ばれている。特に誕生日は希望の食事でありとても喜んでいる。配膳や下膳食器洗い等の手伝いをする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養はバランスの良い提供を中心に、咀嚼・嚥下や嗜好に合わせて対応している。ソフト食も積極的に取り入れている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を着けられない方はうがい、義歯の方は衛生管理を行っている。口腔内の状態を歯科医師にチェックしてもらったこともある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用し、アセスメントを行い情報を整理し、誘導や声掛けを行っている。座位姿勢や離床時間確保にも気を付けている。	布パンツ3名、他は紙パンツ等であるが自立に向けた支援を心掛けている。特に気を付けているのが排便時や便秘時で落ち着きがなく不穏になる利用者に対してである。一人ひとりの状況に応じて対応し、プライバシーにも注意しながら支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のデメリットを理解した上で、服薬なのか服薬であれば何が合うかを確認・実践している。服薬以外であれば牛乳や運動、生活リズム等、アセスメントや実践を個々に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はある程度曜日と時間帯を決めてはいるが、順番や湯加減を希望に沿って実施している。ニーズなどで入浴変更など柔軟に対応をしている。	入浴は基本的に週2回、時間や温度は一人ひとりの希望に応じている。一番風呂になるように毎回掃除して新しいお湯を入れている。それは感染予防対策の一つでもある。リフト浴もあり、重度化の方も対応できている。季節に応じた工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度の休息は、希望や心身の状態などの応じて提供している。入眠前の個々へのアプローチにも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師と連携している。薬剤情報は個人ファイルに最新のものを綴っている。いつでも確認できるようにしている。お薬手帳も整理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近い昔にしていたことや個々人で出来ることはしている。役割に関しては、日常生活での作業を中心に共に取り組むスタイルを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により未実施か限定的な内容での実施に留まっている企画もあるが、徐々にスーパーや喫茶店等に出かけている。また、地域の祭りも再開してきており、参加している。	今年度は外出することを重視している。春の桜祭りへは2ヶ所へ出掛けた。近くの公園へもよく出かけている。近所のドラッグストア、和菓子屋、スーパーなどへの外出では店の人から歓迎された。初詣には近所の神社へ出掛ける予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設が預かっている。外食や買い物、喫茶などに行く際、週1回のパン販売時に、預かっている小口現金を利用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される入居者や家族が現在お見えにならない現状である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにカレンダーを設置。温度は適温を心がけている。廊下フロアは簡素にし、清潔感を意識している。明るすぎない照明を使用している。季節によって飾りつけを行うようにしている。	中庭スペースを囲んだ回廊の壁には花を飾る棚が設えてある。季節に応じた花が飾られ、散歩なども楽しくなる空間である。明るすぎない照明から優しい光が漏れ、居心地良い工夫がされている。掃除も行き届いており清潔感にあふれた共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席位置には気を配っている。昼夜逆転にならない程度の部屋での休養など、ひとりの時間も自身の意思決定をしていただくよう意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを持ってきてもらうことで生き生きとした生活になる一つの要素になると職員に周知している。	背の高い洗面台、クローゼットの中にも沢山の棚があり、好きな物も飾っている。どの部屋も清潔で落ち着いた雰囲気になっている。ベッドの寝具は一人ひとりの好みになっており、ラジオを楽しんだり自分の作品を飾るなど居心地良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー、廊下には手すりを設置している。車いす自走ができる広さがある。居室は、必要に応じてT字バーやポータブルトイレの設置している。		